

# サステナブルファッション



# SUSTAINABLE FASHION

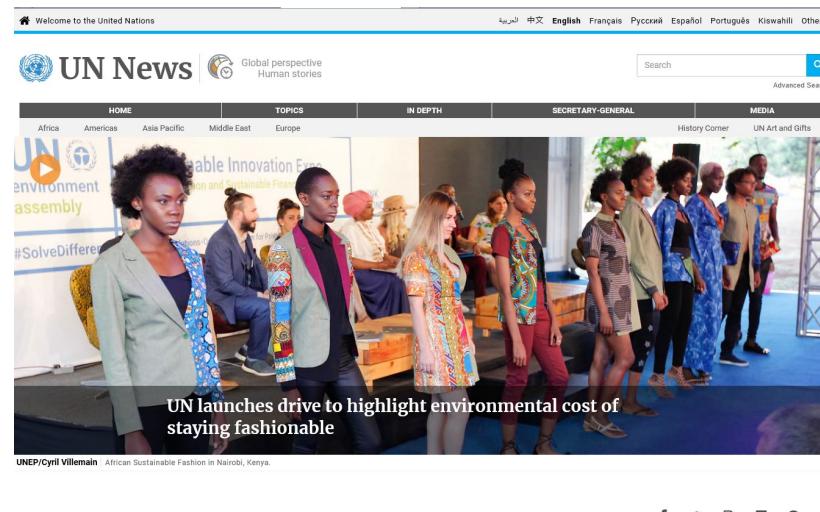
これからのファッションを持続可能に

環境省 四国事務所 酒向貴子

[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)

# ファッション産業が環境に与える影響

UN launches drive to highlight environmental cost of staying fashionable



- ファッション業界は毎年、**930億立方メートル**という、**500万人のニーズを満たすのに十分な水**を使用し、**約50万トンものマイクロファイバー**（石油300万バレルに相当）を海洋に投棄。
- 温室効果ガス（GHG）排出量は合計**12億トン**の**CO2**に相当、国際航空業界と海運業界を足したものよりも多い量を排出

※ Ellen MacArthur Foundation (2017)

## ファッション業界の環境への影響

- 1本のジーンズの生産には、2,000ガロンの水が必要。
- ファッション業界は毎年500万人の生存を可能にする930億立方メートルの水を使用。
- ファッション業界は全世界の廃水の20%を作り出している。
- 衣料品と履物の製造は、全世界の温室効果ガス排出量の8%を占めている。
- 每秒、ごみ収集車1台分に相当する纖維が埋め立てに使われたり、焼却されたりしている。
- 2000年から2014年にかけ、衣料品の生産量は倍増している。

※Quantis (2018)

Source : UN News 25 March 2019

<https://news.un.org/en/story/2019/03/1035161>

# 原材料調達から製造までの環境負荷

## 原材料調達段階の環境負荷

### 天然繊維の環境負荷（コットンなど）



栽培時の水消費  
化学肥料による土壌汚染など

### 合成繊維の環境負荷（ポリエステルなど）



石油資源の使用  
工場でのCO<sub>2</sub>排出など

## 原材料調達から製造段階までに排出される環境負荷の総量（年間）

### CO<sub>2</sub>排出量

約90,000kt

### 水消費量

約83億m<sup>3</sup>

### 端材等排出量

約45,000t<sup>+</sup>

### 化学物質による 水質汚染

※製造段階とは、紡績・染色・裁断・縫製・輸送を指します

## 服1着あたり換算

### CO<sub>2</sub>排出量

約25.5kg



ペットボトル(500ml)



約255本製造分

### 水消費量

約2,300ℓ



浴槽



約11杯分

## 服の着数換算

### 端材等排出量

約45,000t



服



約1.8億着分

※2019年時点における服の国内供給量約35.3億着をもとに算出しています

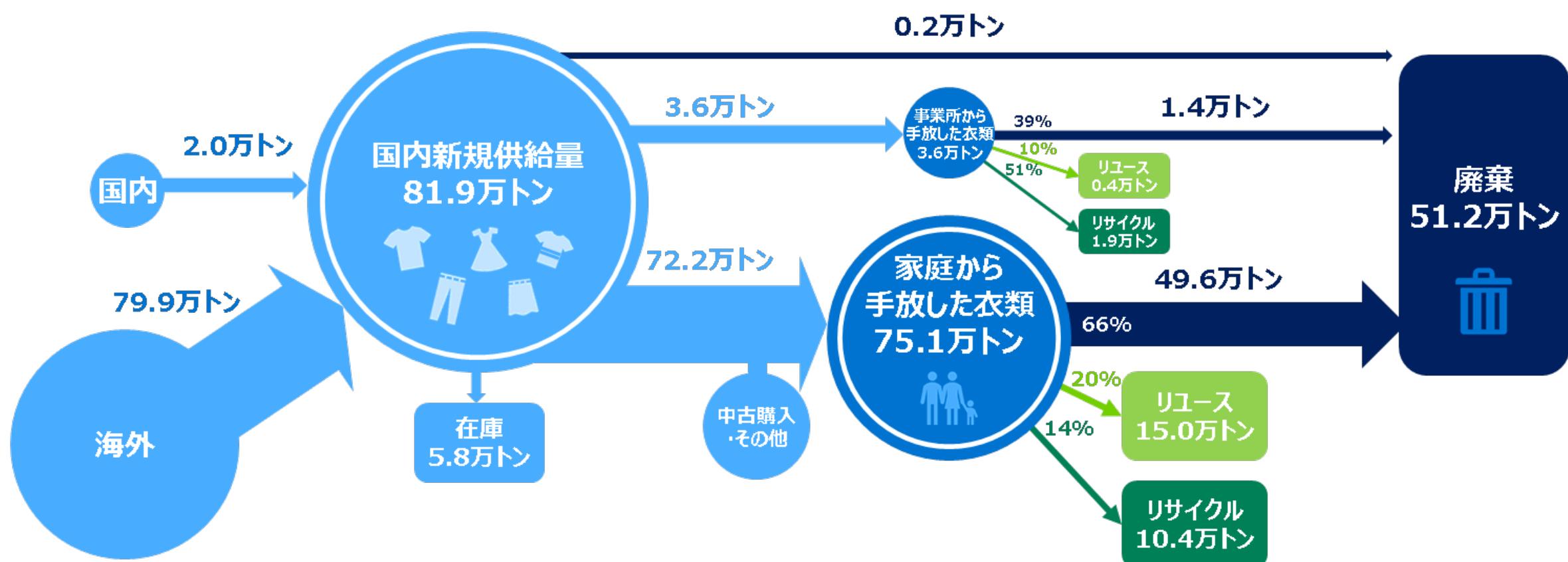
※服1着は0.25kgとして計算しています  
※実際には端材はその多くがリサイクルされています

# 我が国の衣類の行方

## 衣類のマテリアルフロー サマリー

- 衣類の国内新規供給量は計81.9万トン（2020年）に対し、  
その約9割に相当する計78.7万トンが事業所及び家庭から使用後に手放されると推計。
- このうち、廃棄される量は計51.0万トン、手放される衣類の64.8%  
リサイクルされる量は計12.3万トン、手放される衣類の15.6%  
リユースされる量は計15.4万トン、手放される衣類の19.6%

## 2020年版 衣類のマテリアルフロー



出所：株式会社日本総合研究所作成

# 「ファッションと環境」勉強会

- ・ 政府は2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、**2050年カーボンニュートラル**、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言。
- ・ これを実現するためには、サステナブルなモノづくりと同時に、**衣食住のライフスタイルをサステナブルに変えていくことが重要。**



- ・ 業界と生活者が一体となった**サステナブル・ファッション**の促進に向けて、環境省及び企業の取組状況の共有、業界全体の課題、課題解決に向けた企業が連携して取り組むアイデア、環境省への提案などについて議論をおこなった。

## 目指すビジョン

### ファッションロス・ゼロ（家庭からの廃衣を含む）

→適量供給と循環利用（シュアリングサービス、アップサイクル、リペア、リユース、リサイクルなどをトータルに推進）

### 2050年カーボン・ニュートラル

→カーボンフットプリントなど環境負荷の把握、削減目標の設定、素材の見直し、表示などを推進

# 令和3年度 環境白書 循環型社会白書 生物多様性白書

第3章 地域や私たちが始める持続可能な社会づくり

ポストコロナ時代のワーク・ライフスタイルの在り方  
ライフスタイルの更なる変革 「ファッショニ

「大量生産・大量消費・大量廃棄」から環境負荷の低減に貢献する「適量生産・適量購入・循環利用」への転換が重要。

- カーボンフットプリントなど環境負荷の見える化、衣類の店頭回収など生活者が参加しやすいアクションの提示が企業には必要。
- 生活者のサステナブルファッショニへの転換には5つのアクションが鍵。
  - ①服を大切に扱い、リペアをして長く着る
  - ②おさがりや古着販売・購入などのリユースでファッショニを楽しむ
  - ③可能な限り長く着用できるものを選ぶ
  - ④環境に配慮された素材で作られた服を選ぶ
  - ⑤店頭回収や資源回収にして、資源として再利用する

## 自治体と企業との連携による衣類の店頭回収

江東区では、株式会社良品計画と協定を締結し、古着回収ボックスを店舗に設置し古着の再利用・資源化を推進。資源循環を進めることで脱炭素化にも貢献。併せて、食品ロス削減に向けたフードドライブも実施。

## カーボンフットプリントの表示

シューズ・アパレルブランドのオールバーズは、独自に算定したカーボンフットプリントを商品に表示するなど、消費者の選択に環境負荷を織り込む取組を進めている。

無印良品 東京有明(江東区)に設置されている古着回収ボックス



オールバーズの商品のタグに記載されているカーボンフットプリント



(資料:環境省)

(資料:江東区)